

教員になって今日まで

北 沢 美紗紀

長野県上田千曲高等学校

はじめに

教員という仕事を意識するきっかけをくださったのは中学の理科の先生でした。授業がわかりやすく楽しく、先生の人柄もおもしろくて今でも憧れています。高校で物理に出会い、魅了されました。こんなに楽しいものを苦手や嫌いと感じているなんてもったいない。理科の楽しさを伝えたくて教員を目指すことを決めました。

教員という仕事を始めて、いろいろな生徒や先生方と出会い、3年半が経ちました。勤務してから今現在までを振り返ってみたいと思います。

教員1年目

毎日が教育実習のような不思議な感覚で、慌ただしい毎日についていくのに精いっぱいでした。時間になったら授業をして、空き時間は授業準備と分掌の仕事をし、放課後には部活動を見て…。ほかの先生方と同じように仕事をしているつもりでも、私自身の気持ちや行動は先生になれていませんでした。生徒に嫌われるのが怖く、生徒のよくない行動を強く注意することができないでいました。私が担当する掃除分担の女子生徒が、1階までゴミを捨てに行くのがめんどうだから、ゴミを窓から落として下にいる友達に渡すと言い出しました。もちろんやめるよう言ったのですが、聞いてもらえず…。たまたま通りかかった先生が注意し、彼女はゴミを窓から落とすのをやめました。私が彼女の行動を止められなかったこと、また彼女がこのことについて担任に「北沢先生は窓から落としてもいいと言った」と話したことは、私がいらないところで多くの先生に伝わっていたようです。ある日の放課後、理科の先生が私のいる研究室に来て、私を叱ってくれました。生徒は友達ではない、もっと向上心を持って、たくさん授業見学すべき、勝手な判断をしない、些細なことでも質問をする、仲が良い人とだけでなれ合わない…。完璧ではなくても、それなりにほかの先生と同じようにできていると勘違いしていたことにそのとき気がつくことができました。そのときは叱られたことがショックでしたが、私のよくない行動を指摘して

くれたのはこの先生だけです。すごく感謝しています。

教員2年目

2年目は担任をもつことを常に意識していました。勤務校は毎年初任を受け入れており、先輩の先生方を見ていると「初任3年目で担任をもつ」という流れができていました。1年生の副担任にしてもらい、来年は私がこれをやるんだと思いながら1年間担任の先生の行動を見ていました。

冬、いよいよ担任をするクラスを決めるときが来ました。勤務校は7つの専門科を有する職業高校です。普通科目の担任候補は、自分で担任をしたい科（クラス）を選ぶことができました。私は落ち着いていて勉強にも意欲的に取り組む生徒が多いこと、私の専門である物理の授業ができることから建築科を選びました。建築科を選んだ理由を聞かれたらそのように答えていましたが、実はもう1つあります。建築科の職員に同じ年の女性の先生がいたからです。私の中にはちょっとだけライバル意識があり、将来彼女も同じようなクラスを持つことになるので私も、とチャレンジしてみることにしました。この年、彼女は教員採用試験に合格し、転勤をしてしまったためお互いのクラスを見ることはできませんでした。

教員3年目

新入生オリエンテーションでクラスの生徒全員と初対面しました。ん？今までの建築科の生徒となにか違う。制服のシャツの裾を片方しかしまえない、敬語を使う気がない、列を離れて他のクラスのかわいい女子を探しに行く…。去年のオリエンテーションに参加した生徒たちは全員とても緊張していて大人しかったのに、今年は浮かれている生徒がちらほら。勉強も苦手な生徒が多く、近年とは少し違った生徒たち（建築科の先生は昭和のヤンキーみたいなにおいがすると表現していました）が集まっていました。

担任として初めての入学式、このクラスで最初のホームルーム。「私は40人全員で卒業したいです、その40人というのは…」と全員の名前を、顔を見ながら呼んでいきました。これは年配の先生に「最初のホームルームで生徒全員の名前を名簿見ないで呼んでみたら？きっと驚くよ」という提案がきっかけです。ここまでの入学準備で生徒の名前を何度も見ていたため、だいたいは覚えていました。きっとできるだろう、でも間違えたら…と直前まで悩んでいましたが、初めてのクラスだからと思いきってやってみました。緊張で生徒の表情は覚えていませんが、生徒や保護者にすごかったと言ってもらえました。

最初のホームルームで「40人全員で卒業」と高らかに宣言したものの、その目標は叶いませんでした。入学して3日、保護者から「うちの子が学校に行きたくないと言っている」という電話が来ました。その生徒はクラスの雰囲気があわないと不登校になりました。話をしたり、カウンセリングをしたりするも欠席は続いていきました。頭の中はその生徒の

ことでいっばいで、どうしたらいいのかベテランの副担任の先生に半泣きで毎日相談していました。様々な方法や体験談を教えてくださいましたが、最後は「来ないのはしかたがない、来ている生徒をちゃんと見てあげなさい」と言われていました。結局、その生徒は3か月で転学していきました。本人も保護者もつらい3か月だったと思います。転学を決めた話をもらったとき、保護者から全員で卒業の目標を達成できなくてすみませんと謝られました。その生徒が転学せずに残るのが正解かはわからないけれど、担任としてなにもできないうえに、保護者に謝らせてしまったことを申し訳なく思いました。

担任としてなにもできなかったと後悔していることがもう1つあります。とある生徒の対応です。授業態度が悪く、提出物を期限内に提出できずに、2学期の評定で1を多くもらった生徒がいました。気に入らないことがあればすぐ反抗し、特にお母さんへの反発が強く、私もお母さんも扱いに困っていました。まわりの先生も諦めて方向転換させたほうがいいんじゃないの？と言われてしまうほどです。ここで諦めなかったのは副担任の先生でした。副担任はその生徒の部活動の顧問でもあったため、関わりが深く、何度も話をしてくれました。保護者懇談にも同席して、生徒を諭し、課題をやる約束をさせました。私は隣でただ黙って見ていることしかできませんでした。その生徒は無事に課題をすべて終わらせ、みんなと一緒に進級することができました。もっと生徒と関わり、関係を作っておかないと、指導ができないのだと痛感させられました。

教員4年目

不穏な空気が流れていた1年生と違い、クラスの雰囲気はよくなっているようです。今までは面倒なことからは逃げたい、クラスよりもスマホのゲームが第一だった生徒たちが、文化祭では協力しておばけやしきの準備をし、クラスマッチではお互いの応援をしていました。また建築科の先生に「担任が若い姉ちゃんだから権力がないのはしかたがないけど、ちゃんと生徒が担任のほうを向いているね」と言ってもらえました。鈍感で自分では変化を感じ取れないのですが、生徒も成長しているようです。(これがなにか大きな問題が起きる、嵐の前の静けさではなければいいのですが)

教職課程で学ぶ学生のみなさんへ

教員になりたい学生のみなさんには、教員採用試験を受けるまでに考えておいてほしいことがあります。それは「生徒にどんな大人になってもらいたいのか」と「自分がなりたい教師像」を明確にしておくことです。これは教員採用試験を受けるとき、自分の考えの軸になってきます。自分の中にしっかりとした答えがあれば、面接でどんなことを聞かれても一貫性が保てます。きっと教員を目指すみなさんには憧れの先生がいるはずですが、自分のなりたい教師像は考えやすいかと思います。社会に出て生徒が困らないように、しっかりとした生徒の将来像が描けていれば、現場に出たときになんとなく日々を過ごしてしま

教員になって今日まで

うことを防げるはずです。私は現場に出てもなお、生徒の将来像が描けず苦勞しました。同じ目標をもつみなさんで意見交換しつつ、自分の中にしっかりとした考えをもっておい
てほしいと思います。

おわりに

教員になってから、ここまでを振り返ってきました。やはりクラスを持つと嬉しいこと、悲しいことなど思い出が増えます。修学旅行が終わると卒業まであっという間に過ぎていくと先輩の先生方は言います。これからは生徒たちの進路指導がメインになってきます。この子たちの夢を叶えたい、担任としてできることをして、一緒に笑顔で卒業式を迎えたいと思っています。

このような充実した日々を過ごせるのは、北里大学の先生方のおかげです。試験対策や面接、小論文の指導をしていただいたおかげで採用試験に合格することができました。本当にありがとうございました。